

市長のふれあい訪問

「芝西中学校 生徒会」 （いじめ根絶宣言 イエローリボン運動）

「人の嫌がる事をしません」「いじめを見たら、注意するか、先生や身近な大人に伝えます」「楽しい学校をみんなの力でつくります」。この3項目から成る「いじめ根絶宣言」を生徒が自主的に宣言、その証として制服の胸元に黄色いリボンをつける運動を昨年11月に提案し、現在、全校生徒の94%（277人）が宣言するまでに普及させた市立芝西中学校生徒会の役員を岡村市長が訪問。取り組みの内容や成果などを聞きました。



市長 みなさんこんにちは。早いもので4月。新年度を迎えました。今月の市長のふれあい訪問は、いじめ根絶のため校内を挙げてイエローリボン運動に取り組む芝西中学校生徒会のみなさんです。よろしくお願います。はじめに、イエローリボン運動というのはどんな取り組みですか。



石井 校内でのいじめを根絶するため、生徒会が「いじめ根絶宣言」をつくりました。宣言をした生徒の胸に、その証であるイエローリボンをつけることで、自分の意識を高めたばかりかの人を注意したりして、いじめをなくすという運動です。
市長 いじめをしない象徴がイエローリボンなのですね。その宣言はどんな内容ですか。
佐藤 「人の嫌がる事をしません」「いじめを見たら、注意するか、先生や身近な大人に伝えます」「楽しい学校をみんなの力でつくります」の3つを、みんなの前で宣言します。

市長 みんなの前というのは、恥ずかしくなかったですか。
大森 恥ずかしくなかったです。でも、いじめ根絶につながるので勇気を出して宣言しました。
市長 宣言すると、意識や行動も変わりますか。
大川 いじめを見たら積極的に止めたり、悪口を言った人を注意できるようにしました。
市長 なぜこの運動を始めたのですか。

石井 昨年12月に市内全中学校の生徒会役員が集まり、いじめ根絶の対策を話し合う「いじめゼロ中学生サミット」が開かれました。これを前に、芝西中学校で何ができるかを生徒会役員で話し合い、この運動を始めました。
市長 校内での広がりはどうですか。
大森 94%の生徒が宣言しています。
市長 生徒会がみんなに宣言することを勧めているのですか。
石井 宣言する・しないは、あ

くまでも本人の意思です。僕たちが誘導することはありません。
市長 自主的に宣言するのは大切なことですね。宣言をしない生徒はなぜしないのですか。
山田 みんなこの宣言の意味をよく理解しています。だからこそ、人の嫌がることをうつかりしてしまったりという不安などがあつて、踏み出せない人もいます。

市長 そういうことなのでしょうね。ところで、みなさんはいじめをどう定義していますか。
佐藤 相手が嫌だと感じる行為だと思います。
大森 周りで見ているのに注意をしないこともいじめになると思います。
大川 人の体を傷つけたり、言葉で心を傷つけたりすることはいじめに入ると思います。
市長 体と言葉の暴力ですね。この運動を始めて、いじめに当たる行為は減りましたか。
石井 イエローリボンをつけることで自分の意識が高まり、人の嫌がることをしないように普段から心がけるので、目に見えて減りました。
市長 相手の感じ方はわかりにくいですよね。
佐藤 嫌だと感じたら、それを相手に伝える勇気を持つことも大切だと思います。
市長 そうですね。いじめ根絶のポスターコンクールも行ったと聞きましたか。
大森 校内全9クラスがそれ



ぞれ1枚作ったポスターを先生と生徒会で審査し賞を贈りました。
大川 いじめ根絶を訴えるクラスみんなのそれぞれの考えを、一つにまとめ描いた作品です。
市長 イエローリボン運動がみんなの意識を高め、本当に楽しい学校になるよう願っています。それでは今後の抱負を聞かせてください。
石井 意識が薄れないよう新たな取り組みを入れながら、この運動を地域・他校や全国にも伝え、いじめへの意識を高めていきたいと思っています。
市長 いじめによる悲惨な自殺などあつてはなりません。この運動を実践し、やがて全国に広まりいじめがなくなるよう、これからも頑張ってください。今日はどうもありがとうございます。